

大容量泡放射システム活動状況

1 屋外タンク貯蔵所の浮き屋根の沈降疑いで出動した事例

(1) 状況

ヘリコプターの偵察で、浮き屋根式屋外タンク貯蔵所（容量65,700kl、第4類 原油）の浮き屋根が沈降し、浮き屋根上に油らしきものが見られるとの通報があり、タンクの全面火災に備え大容量泡放射システムが出動した。

(2) 計画搬送距離等

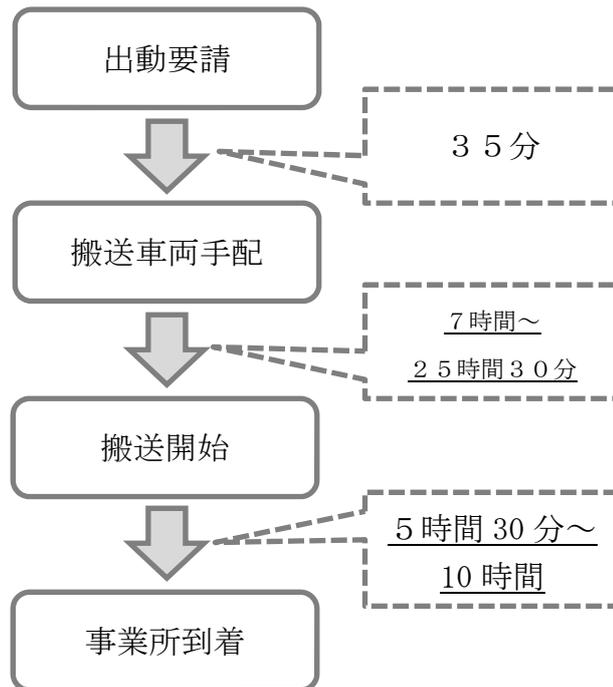
約289km 高速道路使用（計画搬送時間4時間50分）

(3) システム構成

4万kl放射システム（10tトラック×20台（28台（計画）））

(4) 活動時系列

No.	日 時	活動内容
1	3/22 時間不明	「浮き屋根タンク沈降し、屋根上に油らしきものを発見した」との通報
2	18:55	事業所からシステム出動要請
3	19:00	防災組織事務局から防災要員等呼集
4	19:30	防災組織から搬送車両手配・防災要員集合（システム配置場所）
5	22:10～ 3/23 01:26	搬送車両到着5台（第1陣）
6	2:30	搬送開始（第1陣）
7	8:40	システム（第1陣）事業所到着
8	13:30	搬送開始（第2陣）
9	16:30	搬送開始（第3陣）
10	19:40	システム（第2陣）事業所到着
11	21:00	搬送開始（第4陣）
12	22:00	システム（第3陣）事業所到着
13	3/24 07:00	システム（第4陣）事業所到着



(5) 活動内容等

システム搬送を実施、システムの設置展開は実施されなかった。

(6) システム搬送を困難とした理由

搬送車両の手配が困難であった。また確保できた車両の台数が本来必要な台数（28台）に至らず、少なかった（20台）だったため、積載方法を検討しなければならなかった。

⇒ 手配した時間帯が遅かった。

⇒ 震災発生から11日を経過し燃料不足による搬送可能車両が不足していた。

⇒ 搬送可能車両の多くが、救援物資等の輸送のため使用され不足していた。

(7) その他

その後確認したところ、対象とした屋外タンク貯蔵所の浮き屋根の沈降はなかった。

2 高圧ガス施設の延焼防止のために出動した事例

(1) 状況 対象施設

高圧ガス施設（球形タンク 容量2,000kℓ プロパン等）において火災及び爆発が発生し、同一貯蔵施設地区内の他の高圧ガス施設（タンク）へ延焼していたため、延焼を免れていたタンクへの冷却注水のため大容量泡放射システムが出動した。

(2) 搬送距離等

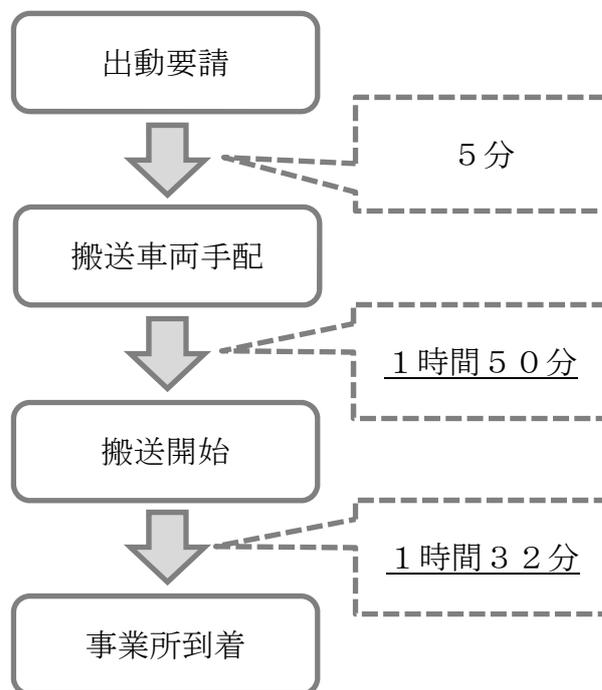
約14km 一般道使用（予定搬送時間 29分）

(3) システム構成

3万kℓ放射システム（10tトラック×10台）

(4) 活動時系列

No.	日時	活動内容
1	3/11 15:47頃	高圧ガス施設において火災発生
2	17:05	事業所及び消防本部からシステム出動要請
3	17:10	防災組織から搬送車両手配・防災要員等呼集
4	19:00	搬送車両到着10台
5	21:15	搬送開始
6	20:45	防災要員集合（現地事業所）
7	22:47	システム事業所到着



(5) 活動内容等

システム搬送を実施、システムの設置展開は実施されなかった。

(6) システム搬送を困難とした理由

搬送車両及び防災要員の確保

⇒通信網輻輳のため連絡ができなかった。

⇒道路渋滞

(7) その他

ア 本来の対象である危険物施設の屋外タンク貯蔵所（浮き屋根式）ではない施設を対象として出場している。

イ 大容量泡放射システムは、あらかじめ対象となる屋外タンク貯蔵所毎に使用するシステムの構成や配置箇所を計画しているが、今回は事前計画がない施設である。

ウ 大容量泡放射システムは、法令により直径3.4m以上の浮き屋根式屋外タンク貯蔵所を保有する特定事業者に対して備え付けるよう義務付けられている。本来目的としている屋外タンク貯蔵所以外の施設への対応は、事業所間の契約に規定されていない、防災要員の負傷や資機材の破損等が発生等した時の対応等、各種課題があると考えられる。

エ 高圧ガス施設等への冷却注水は、海上の消防艇及び陸上の消防車両等により実施された。